

- 1 … 2011年SFAミッション
- 2 … 座談会～友清創・埼玉新聞運動部長に聞く～
- 4 … 大会記録
- 10… がんばろうニッポン! FC3DEP
各委員会より
- 11… JFAキッズ(U-6)サッカーフェスティバル
JFA47都道府県協会訪問会議開催
- 12… インフォメーション・編集後記



●発行/発行人：会長・相川宗一 編集人：高橋 明 ●発行所/(財)埼玉県サッカー協会 住所：〒330-0074さいたま市浦和区北浦和 1-21-18 雁ヶ音ビル204号室
Tel 048-834-2002・Fax 048-834-2004 http://www.saitamasfa.com/ (年間購読料 1500円)

2011年(2008年から継続して)、埼玉県サッカー協会は、SFAビジョン達成に向けて、次の具体策に取り組んでいきます。

2011年度、各専門委員会と各種別委員会のねらいと目標～SFAビジョン達成に向けて

事務局長 高橋 明

すでにホームページ上でお知らせしていますが、今年度のねらいと目標を紹介します。前年度からの大きな変更はありません。というのは、SFAビジョン達成に向けては、単年度で著しい進捗が見られるというものでもなく、日々の積み重ねでしかないということです。継続的にしっかりとしたねらいを持って実行していくことこそが、時間はかかるでしょうが確実に進歩していく方法と考えています。

改めて、ここで目にしていただき、各自の立場でそれぞれ実践していただきたく思っております。また、多くの皆様のご理解とご協力を賜れば幸いです。

①組織の拡充

・各市町村の協会との連携を図る

- a. 情報の共有化
- b. 協力体制の強化

・他競技団体との連携を図る

スポーツの教育的役割や学校スポーツの必要性を提唱し、学校スポーツの充実につなげる

②委員会の活性化

・ビジョン達成のための具体策を各委員会が提案し、実行に移す
1種、2種、3種、4種、女子、シニア、フットサル、各カテゴリーにおける普及、育成、強化活動につなげる

▶中でも重視する考え方は「年間を通じて、個人・チームの個性を伸ばす環境づくり」をすること

⇒現状としては、3種(特に中学校)の指導環境の整備が急務

※今年度、公益財団法人化に向けて準備を進めております(2012年4月予定)。

2011年度 各専門委員会毎の「ねらい・目標・具体策」

専 門	ね ら い	目 標	具 体 策
フェアプレー・規律	サッカーを楽しくプレーするために	「(財)埼玉県サッカー協会はフェアプレー日本を目指します」	・登録全チームを指導する ・試合時に放送(アナウンス)にてフェアプレーを推進する ・主催大会のプログラムにフェアプレー推進の広告を掲載する
技 術	将来を見据えた選手の育成	①各種別の指導者資質・環境の向上 ②大会の見直し(リーグ戦を重視)	①3種の指導者不足改善(中学のインターンシップ制度を強化) ②各種別委員会と連携しながら実施
財 務	SFAの将来に向けて	①公益財団法人化に向けて準備を進める ②各市町村協会との連携 ③他競技団体との連携	①財政基盤の見直し、整備 自主財源の確保と有効活用 SFAの将来構想づくり 技術・各種別委員会と連携した大会整備 ②登録制度の見直しを検討(第1次承認を市町村FAで) ③他競技団体との座談会やイベントの実施
総 務			
施 設			
審 判	楽しく、のびのびとプレーするために	説得力のあるレフェリングをする(リスペクトプログラムの推進)	各カテゴリー審判員数の確保と資質向上のために市町村FA並びに各種委員会・連盟との連携を図る
医 事	健康で楽しく、活気あるプレーをするために	怪我・病気の予防とサポート	・科学委員会と連携した予防に関する取り組み ・県内スポーツ病院マップの作成
科 学		怪我・病気の予防と身体的発達・競技力向上のサポート	・医事委員会と連携した予防に関する取り組み ・調査研究と技術委員会と連携した情報発信
広 報	SFAミッション、SFAの取り組みを理解していただくために	SFAとしての情報を正確に素早く発信する	・SFAニュース、ホームページの改善・検討 ・タウンミーティングの推進・強化

2011年度 各種別委員会毎の「ねらい・目標・具体策」

種 別	ね ら い	目 標	具 体 策
1 種	チームと個人の強化 運営と審判の充実	5年以内(2010年～)のJFL参加チームの育成 3年以内(2010年～)の国体チームのベスト4以内	技術向上のための指導者技術講習会の開催 運営向上のためのマッチコミッサー研修会の開催 審判向上のためのチーム1名以上の3級審判員の育成 フェアプレー精神の向上のためのフェアプレー活動の徹底
2 種	日本サッカーのレベルアップと発展のために選手の育成、強化を図る	①若手指導者の育成 ②2種リーグ戦の改善	①若手指導者研修会の実施 ②既存の大会方式と年間スケジュールの見直し
3 種	指導体制の充実	①中学校教員を対象としたライセンス制度の整備 ②外部指導者派遣制度の導入 ③3種リーグ設立に向けてのアプローチ	①D級講習会の増設(学校施設利用・例/土曜午後)(目標:年間60名を養成) ②関係者の理解・協力を得て外部指導者の増員を図る 未経験顧問への優先的派遣(目標:年間50名20校へ派遣) ③東西南北リーグの整備(FA登録全チーム参加体制の確立)
4 種	全ての子どもたちにチャンスを与える	①4種リーグ(子どもの公式の遊び場)の充実 ②指導者養成コースの整備 ③指導者リフレッシュコースの整備	①全チームに参加を促す ②子どもへのデモンストレーションができる指導者を養成 ③暴言を吐くような指導者を無くす
女 子	登録メンバーを増やす	2年後(2010年～)に県内登録者数全体の5%まで女子選手登録者数を増やす	・4種と3種年代の連携 ・中・高の女子サッカー部の数を2倍にする
シニア	いつまでも健康でサッカーを楽しむ	①フェアプレー精神の尊重 ・フェアな言動・行動 ・相手選手や、レフェリーに対する友愛・尊敬の念 ②シニアリーグの充実 ・ファイナルとしての受け皿を整備 ③登録選手2,000人	①いつまでもピッチに立つ ・怪我をさせない、怪我をしないプレー ・説得力のある信頼されるレフェリング ②各カテゴリーにあったゲームを楽しむ ・シニア40リーグの1部・2部制への移行 ・シニア60・65・ロイヤルのチームを増やす ③一緒にプレーする仲間を増やしていく
フットサル	①自主運営のリーグ開催 ②フットサルファミリーの増加	①1部・2部・女子リーグの組織の見直しと各チームでの自主運営を目指す ②各カテゴリー毎のリーグ戦を開催	①各リーグカテゴリー毎に運営役員の組織化・運営実施のマニュアル作成・連盟指示のもと、完璧な自主運営を目指す ②各県リーグの余剰時間での開催と県リーグチームの運営手伝い

座談会

どの種別でも指導者が重要。世界トップ10からの逆算 ～友清創・埼玉新聞運動部長に聞く～

出席者 友清 創 埼玉新聞社 編集局運動部部長
(敬称略) 横山 謙三 (財)埼玉県サッカー協会 専務理事・副会長
坂庭 泉 (財)埼玉県サッカー協会 理事・事務局長代行・技術委員長

もっといい選手が出てきてもいい

—友清さんには、ご多忙のところおいいただき、ありがとうございます。この春から、埼玉新聞の運動部と市民スポーツ部が一緒になったそうですね。その話から聞かせていただけますか。

友清 社として、これからは小、中、高、そして大人までと長い目で一人の選手を応援していきたいと考えています。正直、今までは小学生や中学生のスポーツは市民スポーツ部が担当していたので、私はなかなかわかりませんでした。しかし、これからは今まで以上に入り込み、記事として取り上げていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

—これから、今まで以上に小中学生の記事も多く掲載していただけるということですね。さて、友清さんは埼玉のサッカーをどのようにご覧になっていますか。

友清 あまり明るくないですね。レッズやアルディージャというトップのチームが元気だと、サッカー界も盛り上がるんですけどね。そんな中、原口(元気)が非常に注目を浴びています。身体もがっちりしてきました。

坂庭 ケガをしなくなったのもいいですね。また、震災後に募金活動など様々ないい経験をして、大人になったと思いますね。アルディージャでは、渡部(大輔)を取り上げてほしいものです。

友清 二人ともユース出身です。レッズもアルディージャも、バルセロナのようにユース出身の選手を多く揃えてほしいものですね。

坂庭 これまでも高校からは中澤(佑二・三郷工技高校→横浜F・マリノス)、山岸(範宏・熊谷高校→中京大学→レッズ)、堀之内(聖・市立浦和→東京学芸大学→レッズ)、らが育ってきました。川島(永嗣・浦和東高校→リールセ)もいるし、福田(俊介・西武台高校→法政大学→アルディージャ)、清水(慎太郎・西武台高校→アルディージャ)らもいます。

友清 埼玉からは、選手は出ています。と思います。

横山 日本は世界のトップ10を目指しています。そこに埼玉も繋がっているのです。となると、Jリーグはもっと高いレベルで試合をしなければならないでしょう。県内の2チームはどうか、と思います。原因はわかりませんけどね。

このトップ10を本当に狙えるのでしょうか？またそういう育てられ方をしているのでしょうか？ していないと思うんですね。そこが



友清 創氏

問題でしょう。

よく、高校にいい選手が集まらずにJクラブへ行ってしまうと聞きますが、本当にJクラブに行っているとすれば、この20年でもっとJクラブのトップチームや日本代表でレギュラーになれる選手がいて当然でしょう。本当に世界のトップ10を目指すのであれば、高校とJクラブのあり方を整理しなければならないのではないのでしょうか。指導者や大会など変えなければいけないことがたくさんありますが、JFAが先頭に立って考えていかなければなりません。

もっと指導者を増やさなければ

坂庭 県内の環境は悪くなっていると思いますよ。グラウンドがないですからね。100人も200人もいるような高校もあれば、20人しかいないチームもあり、指導環境がいいとは言えないのです。やはり必要なのは、選手が分散できるように指導者を増やして、しっかりと指導できるチームを増やすことです。

横山 本来ならば、人数が多いチームはその中から優れた選手が出てくるのですから強いはずですよ。しかし、そうでないとすれば、改善しなければなりません。

友清 クラブと高校が日本のサッカー界の両輪だと思います。確かに、いい選手がレッズとアルディージャに集まっていれば、もっとすごい選手が出てこなければいけません。

指導者が重要です。目先の優勝も大事ですが、一人でも多く、世界に羽ばたけるような選手を育ててもらいたいですね。

以前、4種の試合を見ていたら、試合中にミスした選手を呼んで怒っているんですね。また、子どもも直立不動で聞いているんです。小学校のレベルで勝利至上主義とは。子どもたちは、サッカーを好きになるんですか。

坂庭 立ってきいている子どもは聞いていますよ(笑)。でも、それはコーチの自己満足。ベンチから言われても、子どもは覚えていませんから。

横山 ワールドカップの決勝戦で選手を呼んで怒っている監督がいますが、選手は直立不動ではないですよ。そういうことを平気でやっているんです。正しい指導者を増やすことが我々の仕事なのです。

友清 素材の問題か、指導者の問題かですね。どうすれば日本代表に、埼玉産の選手が一人でも多く入ってくれるのでしょうか。

横山 生まれたときからどう育てるかです。だからSFAは4種リーグを始めて、素材を見つけ出そうとしています。しかしせつ



横山 謙三氏

かく育てた小学生が中学校に入っても、サッカーの指導現場が整っていないのです。今、埼玉だけでなく日本全国の中学校に指導者がいません。3種年代が一番子どもたちが伸びる時期なので、この時期にきちんとした指導者がいてほしいのです。SFAは大学生のインターンシップ制度に取り組んでいますが、他に何かいい案はありませんか？

友清 理想は指導者が同じ地域に長くいてくれることです。転勤でサッカー部がなくなってしまうのですから。

坂庭 OBが学校に戻っても、教わった先生がいないんですよね。それで地域との繋がりが薄くなっているような気がします。昔は地域で小、中、高と繋がっていたんですけどね。

友清 中学校は、学校対抗ではなく、地域対抗にできないのでしょうか。子どももどこに行っても同じような指導が受けられ、指導者も同じ地域での異動ならば、そのまま変わらず指導できるとか。そういう今までにないくらいの改革をしなければならぬと思います。

横山 いいと思いますね。ただ、教育環境、社会環境も揃わなければ難しいでしょう。

坂庭 越谷は中学校を選択制にしたそうですし、幸手や志木でも、そういう動きがあると聞いています。

横山 しかし、サッカーをやりたいという子どもたちが集まった学校が100人規模になるようであれば、もっと指導者を育てないといけないということです。大きな問題は施設です。そうすると、やはり学校を地域の中心として、スポーツが行われるようにならなければいけないでしょう。埼玉でやれることは、学校を中心としたスポーツ活動です。そこで学校には、もっと外部指導者を受け入れてほしいのです。

レッズ、アルディージャのOBを外部指導者に

友清 外部指導者が現実的です。

横山 いい指導者が中学校に行ってもらえばいいのです。そこで、いい指導者をどう養成するかです。SFAでは大学生に無料で指導者資格を取ってもらい、県体協と県内の大学と連携して、インターンシップ制度を展開しています。ただ送り込むのではなく、しっかりと育成して送り出しているのです。

友清 大学生ではありませんが、レッズとアルディージャで引退した選手を外部指導者として派遣することはできますか？ プロ選手だった経験を生かせると思うのです。

横山 一つの案ですね。

坂庭 県内でも昌平高校に藤島さん（信雄氏・元日本代表）が指導されていますし、黄川田さん（賢司氏）が母校の狭山ヶ丘高校で指導しています。何人かいますね。

横山 中、高とも、人間指導が一番です。元選手たちは、どんどんチャレンジすればいいのです。行った先

で結果が出たらレッズ、アルディージャから「戻ってこい」と言われるでしょう。そうなると何がいいのかははっきりします。

坂庭がよく言うけれど、学校のルールの中で「これを外してはいけない」ものを理解して指導してくれればいいのです。学校も、そのラインをはっきりしてくれればいいのです。

ある元選手が「インターンシップ制度、いいですね」と言ってくれたので、「1年間無料で指導してくれないか」と頼んだことがあります。嫌がられましたね。まだきちんと指導したことがない訳だから、指導者としての価値は無いのです。選手と指導者は全然違うものなのです。選手上がりのプライドを捨てきれずにいるという問題が出てくるかもしれません。よく学校と外部指導者のトラブルがあると聞きますが、それは制度が悪いのではなく、人が悪いということ。そこを間違っただけではないのです。

まだ、プロ選手に偏見があるようです。社会秩序を怠りがちだと。そうではないというところを、レッズとアルディージャが胸を張って証明してもらいたいものです。

坂庭 お金の問題、生活の問題がクリアできれば大丈夫なんですからね。

友清 必ず成功も失敗もあるのです。それを修正していけばいいのです。チャレンジしてみないといけませんね。また既成概念にとらわれてもいけません。もっとポジティブに取り組んでもらいたいものです。

横山 埼玉新聞さんには、4種リーグと4種選手権の後援もしていただいています。友清さんが言う、素材と指導者という問題に関しては、4種と3種が極めて重要であることを扱っていただけるとありがたいですね。例えば、まだ1日でホーム&アウェイの2試合をやっている地区もあります。我々の考えと、実際どのようにリーグ戦が行われているかも伝えていただき、その上で運動部長から「ここが問題だ」と言っていただきたい。よろしくお願いします。

友清 ありがとうございます。4種リーグに中学校へのインターンシップ制度というのは、重要なことだと思います。埼玉新聞としても、しっかり、厳しく、そして正しく見ていきたいと思っています。SFAと埼玉新聞は太いパイプで結ばれています。こちらとしてもSFAに期待していますし、応援しています。今後ともよろしくお願いします。

—長い時間、ありがとうございました。こちらこそ、よろしくお願いします。



坂庭 泉氏



インターンシップの指導現場～加須市立北川辺中学校

大会記録●県内大会

1種

第1回第1種選手権トーナメント

3月6日 熊谷スポーツ文化公園補助競技場他

平成国際大学	1-1	坂戸シティー
(5PK3)		
城西大学	4-2	A.C.アルマレッザ
埼玉大学	3-2	F.C.西武台
ホンダ・ミノノツツ狭山	2-1	尚美学園大学

※震災の影響で以後中止

社会人

平成23年度彩の国カップ埼玉県サッカー選手権大会 埼玉県社会人サッカー連盟会長杯

1月23日～3月6日 熊谷スポーツ文化公園他

さいたまSC	7-0	チーム・ニッポン
川越全酪	3-2	狭山ラトルズ
武南クラブ	3-0	北坂戸SC
越谷FC	1-4	AVENTURA KAWAGUCHI
パイオニア川越	1-5	F.children
鴻巣ラホージャ	1-0	FC.3DEP
アルドール狭山	0-0	熊谷西SC
川口SC	1-0	FCサンシン
パイオニア川越	5-0	パイオニア川越

※パイオニア川越は初優勝



決勝 パイオニア川越 vs 武南クラブ

埼玉県社会人リーグ1部

●6月20日現在

順位	チーム名	勝	分	負	得点	失点	得失差	勝点
1	パイオニア川越	6	0	1	26	10	+16	18
2	坂戸シティー	5	1	1	24	14	+10	16
3	ホンダ・ミノノツツ狭山	4	1	1	14	7	+7	13
4	飯能セボジー タス	2	2	2	16	11	+5	8
5	武南クラブ	2	1	3	8	17	-9	7
6	越谷FC	1	3	1	9	9	±0	6
7	狭山ラトルズ	1	1	4	12	20	-8	4
8	F.C.西武台	1	1	5	7	18	-11	4
9	浦和レッズアマチュア	0	2	4	7	18	-11	2

大学

平成23年度春季1部リーグ

●第6節終了時点

順位	チーム名	勝	分	負	得点	失点	得失差	勝点
1	東京国際大学	5	1	0	16	2	+14	16
2	平成国際大学	4	1	1	17	4	+13	13
3	尚美学園大学	3	0	3	11	9	+2	9
4	埼玉大学	2	3	1	7	7	±0	9
5	文教大学	1	2	3	5	7	-2	5
6	共栄大学	1	2	3	7	16	-9	5
7	埼玉工業大学	1	2	3	6	15	-9	5
8	獨協大学	1	1	4	5	14	-9	4

2011年度第35回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント 埼玉県代表決定戦

5月1日～8日 獨協大学グラウンド他

2回戦	東京国際大学	4-2	芝浦工業大学
	獨協大学	3-1	埼玉大学
	文教大学	2-1	尚美学園大学
	平成国際大学	8-1	東洋大学
決勝	平成国際大学	3-1	獨協大学
	東京国際大学	2-1	尚美学園大学

※第1代表は平成国際大学、第2代表は東京国際大学となった

彩の国カップ大学代表決定戦

5月22日 東京国際大学グラウンド

東京国際大学	2-0	文教大学
埼玉工業大学	2-1	獨協大学

※東京国際大学と獨協大学が大学代表となった

2種・クラブ

彩の国カップ2種クラブ代表決定戦

2月20日～4月24日 レッズランド他

1回戦	浦和レッズ	11-0	浦和スポーツクラブ
	A.C.フツロ川口	0-5	大宮アルディージャ

決勝 浦和レッズ 2-1 大宮アルディージャ

※浦和レッズユースが2種クラブ代表になった

2種・高校

平成23年度 高校サッカー関東大会 埼玉県予選

4月10日～24日 西武台高校第2グラウンド他

正智深谷	0-1	1	5	埼玉栄	0-0	5-0
大宮南	1-2	3	1	花咲徳栄	2-1	0
大宮東	0-0	1-1	5	浦和西	0-1	0
三郷北	3-1	4	1	成徳深谷	0-0	1
県陽	0-1	0-0	4	武蔵越生	0-0	1
伊奈学園	0-0	0-0	5	昌平	0-1	0
早大本庄	0-0	0-0	6	西武文理	0-0	0-2
川口北	0-0	1-0	1	市立浦和	0-0	0-4

※伊奈学園高校、市立浦和高校の同校優勝。伊奈学園は初優勝。



決勝 市立浦和 vs 伊奈学園

●総評 平成23年度 高校サッカー関東大会 埼玉県予選

埼玉県高体連サッカー専門部 武田直樹(栄北高校)

「平成23年度高校サッカー関東大会埼玉県予選」が、西武台高校グラウンドほか各会場にて、去る4月10日から24日まで行われた。

今大会は、昨年度の新人戦において各支部(東西南北)から勝ち上がった24チームからプリンスリーグに参加する3校(浦和東、西武台、武南)を除いた21校と、中央新人大大会出場8チームとを合わせた全29チームによるトーナメント方式で行われた。東日本大震災後の余震の続く中ではあったが、予定通り試合が進むことができた。

今大会は伊奈学園(初優勝)と市立浦和の両校優勝となり、両校が6月の関東大会へと進出する。ただ、関東大会のシード決めのPK戦では7-6で市立浦和が勝利し、3位に大宮南、埼玉栄という結果に終わった。

決勝戦は伊奈学園 vs 市立浦和。80分間、延長戦でも決着がつかず、シード決めのPK戦までもつれ込んだ。前日に、互いに関東大会出場を決めていたので、モチベーションが落ちるかと思われたが、最後まで

諦めない気持ちどちらのチームにも見られ一進一退の攻防となった。特に伊奈学園は、今大会5試合中3試合がPK戦と、我慢を強いられる試合が多く、精神的にも体力的にも試合を重ねるごとに成長した結果が、この決勝戦にも表れたように感じた。また前半に2点を失い、後半追いつき、延長戦では勝ち越しを決めるも追いつかれたが、80分の中では前半に2点を失う中、後半追いついた。関東大会でも期待したい。

市立浦和は、決勝戦しか見ることができなかったが、昨年度の選手権埼玉県大会メンバーが残り、経験・精神的な面が延長戦残り3分で同点に追いつく要因の一つになっていたように感じた。また、準決勝までの3試合は無失点と、DFラインを中心とした守備意識が高く、統率されていた。攻撃はサイドを広く使う攻撃が有効的だが、更にスピードや質をあげて戦ってほしい。

埼玉栄は、個人スキルが高く、ドリブル・ショートパスなどスピードある攻撃が見られ、決定的シーンを多く作り出していた。課題を挙げれば、点をリードされているときの試合運びだろう。気持ちを切り替え、落ち着いて戦い、続く総体予選での戦いに期待したい。

大宮南は、守備的な試合にならざるを得ない状況においても、そのゲームプランを選手が徹底して1試合貫くことにより、正智深谷(ラウンド16)を破り、優勝した伊奈学園にはPK戦の末に敗れたものの、ベスト4まで駒を進めた。個人能力の高い選手がいるだけに今後も楽しみなチームである。

上位進出はならなかったものの正智深谷は、昨年度の中心メンバーが残り、能力的には他のチームよりも上に見られた。しかし、初戦の入り方や、相手に守備的に入られたときの崩し方、リードされた時のメンタルや、試合運びに課題が残ると感じた。だが、攻撃時のスピードや、パワーは魅力的で今後に期待したい。

今大会を終えて考えると、参加したどのチームにも上位に進出するチャンスはあったように感じる。新人戦があったものの、チームとしては作り上げる段階で、特に、試合後者になるチームにおいても、気持ちや、戦い方次第では上位に勝つ上がる要素はあった。「勝ちたい」という気持ちや、最後まで諦めない気持ちの強いチームが、勝ち進めたように感じた。

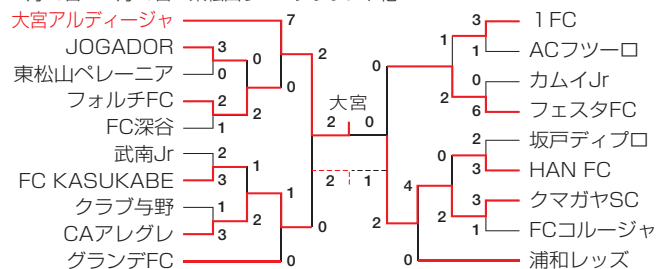
全体の印象としては、個人技術の質を更に高めてほしい。ボールを止める・蹴るという何気ないプレーをゴールから逆算をし、DFラインでパス交換や、くさびのパスなどから、右・左足、強弱、角度、右・左回転などの質を上げることによって、攻撃時の選択肢も増え、戦術にもバリエーションが増えるように感じる。もっとも選手自身がゲームによって感じる事が一番だが、プロフェッショナルなゲームを見るなどして感じてほしいと思う。

最後に、伊奈学園・市立浦和の両チームは、前述したように、最後まであきらめない強い気持ちと、それぞれのチームの特徴をいかし、埼玉県の代表として優勝目指して戦ってほしい。また、個人としてもチームとしても、遅くなって埼玉に帰ってくることを期待したい。

3種・クラブ

第20回埼玉県クラブユース(U-14)サッカー選手権大会

12月18日～4月10日 東松山リコグラウンド他



※大宮アルディージャが優勝

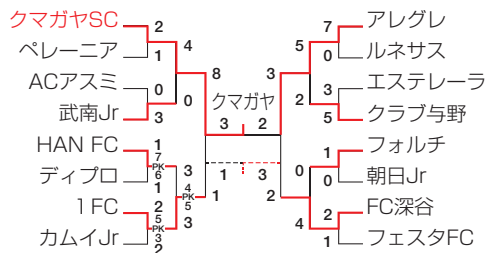
第4回埼玉県ユース(U-15)サッカーリーグ

●6月4日現在

順位	チーム名	勝	分	負	得点	失点	差	勝点
1	クマガヤSC	4	0	0	20	3	+17	12
2	アレグレ	3	0	0	8	2	+6	9
3	大宮FC	2	0	0	4	0	+4	6
4	KASUKABE	2	0	1	6	5	+1	6
5	武南ジュニア	1	0	1	2	1	+1	3
6	フェスタ	0	2	1	2	3	-1	2
7	カムイジュニア	0	1	2	2	5	-3	1
8	坂戸ディプロ	0	1	2	2	7	-5	1
9	豊春中	0	0	2	1	11	-10	0
10	三郷ジュニア	0	0	3	0	10	-10	0

第26回日本クラブユース(U-15)サッカー選手権大会埼玉県予選

5月3日～6月5日 Nack5スタジアム他

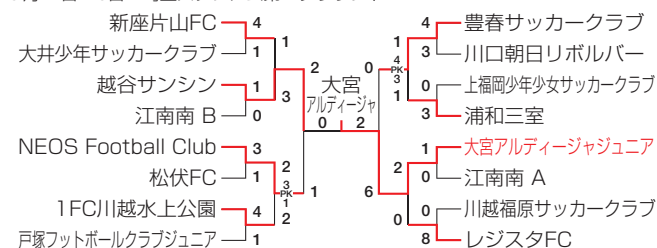


※上位7チームが関東大会に進出する

4種

第35回 全日本少年サッカー大会 埼玉県大会

6月12日・19日 埼玉スタジアム第2グラウンド



※大宮アルディージャが優勝

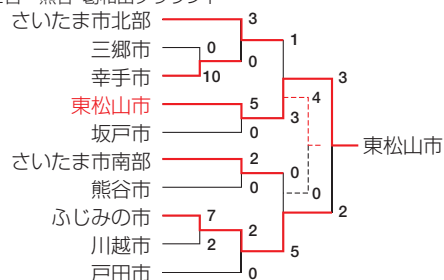


決勝 大宮アルディージャ vs 越谷サンシン

女子

第24回埼玉県民総合体育大会[サッカー競技]一般女子

5月15日～22日 熊谷・葛和田グラウンド



※東松山市が優勝

埼玉県女子1部リーグ

●6月19日現在

順位	チーム名	勝	分	負	得点	失点	差	勝点
1	エルフェン狭山マリ	3	0	1	15	9	+6	9
2	大東文化大学	2	0	0	10	1	+9	6
3	上福岡女子SC	1	0	0	6	2	+4	3
4	戸木南ボンバーズFC	1	0	1	6	6	±0	3
5	FC.JAM-G	0	0	2	3	9	-6	0
6	白岡SCL	0	0	3	2	15	-13	0
—	大宮FCエンジェルス05	—	—	—	—	—	—	—
—	花咲徳栄高校	—	—	—	—	—	—	—

シニア60リーグ

●6月12日現在

順位	チーム名	勝点	勝	分	負	得点	失点	差
1	パルス・US	4	1	1	0	3	1	+2
2	ポラリス	4	1	1	0	2	1	+1
3	浦所チーム	3	1	0	1	5	2	+3
4	FSC	3	1	0	1	3	2	+1
5	サウスフレンズ	3	1	0	1	3	3	±0
6	KMO	0	0	0	2	0	7	-7

ロイヤルリーグ

●6月12日現在

サクラ 2勝0敗 ケヤキ 0勝2敗

65リーグ

●6月12日現在

サクラ 2勝0敗 ケヤキ 0勝2敗

フットサル

2011年度第11回埼玉県フットサルリーグ1部

●6月11日現在

順位	チーム名	勝点	勝	分	負	得点	失点	差
1	烏天狗	3	1	0	0	8	4	+4
2	ロクFC	3	1	0	0	3	1	+2
3	IMPERIO	3	1	0	0	2	1	+1
4	Mf	1	0	1	0	2	2	±0
5	FFC Estrela	1	0	1	0	2	2	±0
6	マカブ〜	0	0	0	0	0	0	±0
7	坂戸龍門	0	0	0	0	0	0	±0
8	rapido	0	0	0	1	1	2	-1
9	THOMAS FC	0	0	0	1	1	3	-2
10	pal'u:wo	0	0	0	1	4	8	-4

2011年度第8回埼玉県女子フットサルリーグ

●6月4日現在

順位	チーム名	勝点	勝	分	負	得点	失点	差
1	SAICOLO	9	3	0	0	20	0	+20
2	FUKAYA	9	3	0	0	11	2	+9
3	dolce de donna	6	2	0	1	14	8	+6
4	武蔵浦和FC	6	2	0	1	14	13	+1
5	chechio	1	0	1	2	2	7	-5
6	り〜ずなぶる	1	0	1	1	1	6	-5
7	I.F.C./ems	0	0	0	2	2	13	-11
8	GRANDE	0	0	0	3	5	20	-15

大会記録●県外大会

1種

関東社会人リーグ1部

●6月19日現在

順位	チーム名	勝	分	負	得点	失点	差	勝点
1	NPO横浜スポーツ&カルチャークラブ	7	0	0	15	2	+13	21
2	tonan前橋	4	1	2	14	8	+6	13
3	流通経済大学	4	0	3	14	10	+4	12
4	さいたまサッカークラブ	4	0	3	14	11	+3	12
5	神奈川県教員サッカークラブ	3	0	4	15	17	-2	9
6	FC KOREA	2	1	4	11	15	-4	7
7	ヴェルフェたかはら那須	2	1	4	9	19	-10	7
8	東邦チタニウムサッカー部	0	1	6	6	16	-10	1

関東社会人リーグ2部

●6月19日現在

順位	チーム名	勝	分	負	得点	失点	差	勝点
1	エリスフットボールクラブ東京	6	1	0	18	4	+14	19
2	FC相模原	4	1	2	16	6	+10	13
3	クラブ・ドラゴンズ	4	1	2	8	4	+4	13
4	横浜猛蹴	4	0	3	16	11	+5	12
5	日立ビルシステムサッカー部	3	0	4	9	16	-7	9
6	ACアルマレッザ	2	1	4	9	17	-8	7
7	海上白衛隊厚木基地マーカス	1	2	4	6	15	-9	5
8	東京海上日動火災保険	1	0	6	5	14	-9	3

JR東日本カップ2011 第85回関東大学サッカーリーグ戦2部

●第8節終了時点

順位	チーム名	勝	分	負	得失差	勝点
1	日本体育	6	2	0	+12	20
2	東京学芸	6	0	2	+4	18
3	東洋	5	1	2	+10	16
4	関東学院	5	1	2	+3	16
5	東海	4	3	1	+3	15
6	拓殖	3	1	4	-2	10

順位	チーム名	勝	分	負	得失差	勝点
7	法政	3	0	5	+7	9
8	桐蔭横浜	2	2	4	±0	8
9	日本	2	2	4	-1	8
10	朝鮮	2	1	5	-12	7
11	城西	2	0	6	-10	6
12	國學院	1	1	6	-10	4

2011年度第35回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント 関東代表決定戦

5月18日～6月8日 流通経済大学フットボールフィールド他

●Bブロック 東洋大学 2-1 城西大学
東京国際大学 1-2 日本体育大学

2種

高円宮杯U-18サッカーリーグ2011 プレミアリーグイースト

●第6節終了時点

順位	チーム名	勝点	試合数	勝	分	負	得点	失点	差
1	浦和レッズ	13	6	4	1	1	17	6	+11
2	コンサドーレ	12	6	3	3	0	15	5	+10
3	青森山田高校	10	4	3	1	0	12	4	+8
4	ヴェルディ	9	5	2	3	0	8	5	+3
5	エスパルス	8	6	2	2	2	7	10	-3
6	FC東京	5	5	1	2	2	4	5	-1
7	三菱養和	5	5	1	2	2	7	11	-4
8	流経大付柏高校	4	6	1	1	4	7	12	-5
9	静岡学園高校	2	5	0	2	3	6	13	-7
10	尚志高校	1	4	0	1	3	1	13	-12



プレミアリーグ イースト 浦和レッズ

高円宮杯U-18サッカーリーグ2011 プリンスリーグ関東 1部リーグ

●第7節終了時点(未消化あり)

順位	チーム名	勝点	試合数	勝	分	負	得点	失点	差
1	市立船橋高校	10	5	3	1	1	10	4	+6
2	桐蔭学園高校	10	5	3	1	1	14	9	+5
3	鹿島アントラーズFCユース	10	5	3	1	1	10	5	+5
4	大宮アルディージャユース	10	5	3	1	1	11	8	+3
5	横浜F・マリノスユース	9	5	3	0	2	8	7	+1
6	桐光学園高校	8	5	2	2	1	8	7	+1
7	前橋育英高校	6	5	2	0	3	6	5	+1
8	ジェフユナイテッド市原・千葉U-18	6	5	2	0	3	8	8	±0
9	八千代高校	3	5	1	0	4	4	13	-9
10	成立学園中学・高校	0	5	0	0	5	2	15	-13



プリンスリーグ関東 1部リーグ 大宮アルディージャ

高円宮杯U-18サッカーリーグ2011 プリンスリーグ関東 2部リーググループA

●第5節終了時点(未消化あり)

順位	チーム名	勝点	試合数	勝	分	負	得点	失点	差
1	山梨学院大学附属高校	9	3	3	0	0	12	3	+9
2	駒澤大学高校	6	3	2	0	1	6	3	+3
3	幕張総合高校	6	3	2	0	1	2	3	-1
4	湘南ベルマーレユース	5	3	1	2	0	3	2	+1
5	佐野日本大学高校	3	3	1	0	2	2	4	-2
6	西武台高校	2	3	0	2	1	1	2	-1
7	浦和東高校	1	3	0	1	2	1	3	-2
8	水戸商業高校	1	3	0	1	2	4	11	-7

2部リーググループB

●第5節終了時点(未消化あり)

順位	チーム名	勝点	試合数	勝	分	負	得点	失点	差
1	柏レイソルU-18	9	3	3	0	0	6	0	+6
2	真岡高校	5	3	1	2	0	5	4	+1
3	川崎フロンターレU-18	5	4	1	2	1	3	2	+1
4	桐生第一高校	4	3	1	1	1	4	5	-1
5	鹿島学園高校	4	3	1	1	1	2	3	-1
6	武南高校	3	3	1	0	2	5	5	±0
7	矢板中央高校	3	3	0	3	0	0	0	±0
8	麻布大学附属淵野辺高校	1	4	0	1	3	6	12	-6



プリンスリーグ関東2部リーグ
グループA 西武台高校



プリンスリーグ関東2部リーグ
グループB 武南高校

平成23年度第35回日本クラブユースサッカー選手権(U-18) 大会関東大会 1次リーグ

4月16日～5月3日

●2部リーグA

順位	チーム名	勝	分	負	得点	失点	差	勝点
1	ザスパ草津	4	1	0	11	1	+10	13
2	リオFC	4	0	1	9	2	+7	12
3	FC Balzo	3	0	2	15	7	+8	9
4	FC 町田ゼルビア	2	1	2	13	3	+10	7
5	浦和スポーツクラブ	1	0	4	5	25	-20	3
6	INAC多摩川	0	0	5	2	17	-15	0

●2部リーグC

順位	チーム名	勝	分	負	得点	失点	差	勝点
1	西多摩SSS	4	1	0	15	0	+15	13
2	ACフツーク	3	1	1	14	9	+5	10
3	フットワーク	3	0	2	9	4	+5	9
4	つくばFC	2	1	2	10	13	-3	7
5	TFCシュトルツ	1	0	4	6	21	-15	3
6	OSA	0	1	4	3	10	-7	1

※ 浦和SC、ACフツークは2次リーグへ進出できず。浦和レッズ、大宮アルディージャは2次リーグから出場

第54回関東高等学校サッカー大会

6月4日～6日 群馬県立敷島公園サッカー・ラグビー場他

●Aグループ

1回戦 市立浦和 3-0 湘南工大附
準決勝 市立浦和 2-1 習志野
決勝 市立浦和 1-3 ウィザス

●Bグループ

1回戦 伊奈学園 1-2 帝京



Aグループ決勝 市立浦和 vs ウィザス



B グループ1 回戦 伊奈学園 vs 帝京

●平成23年度 第54回関東高等学校体育大会サッカー競技報告

埼玉県高体連サッカー専門部技術委員 高橋 智

埼玉県勢の2年連続優勝を阻んだのは、初出場の茨城県代表ウィザス高等学校だった。Jクラブジュニアユース出身選手を多く抱えるウィザスは、選手個々の技術レベルが高く、戦術眼に長け、1試合を通じてハードワークできるハイレベルなチーム。リズムあるショートパスの交換とポジションチェンジ、ドリブル突破を絡め、常に数的優位な状況を作り出す。味方同士の距離を近く保つため、ボールを失っても素早い攻守の切り替えて、常に相手にプレッシャーをかけ続けていた。粘り強い戦いで決勝戦も健闘した市立浦和であったが、3連戦の影響が後半に入ると運動量が落ち、選手が孤立する場面が多く、ラストパスの精度も欠き、フィニッシュまで至らなかった。県内予選で活躍していたアタック陣の2選手を欠くなかでの戦いは選手層の厚さを改めて感じさせ、結果的にはチームの底上げに繋がったと思われる。

伊奈学園と帝京の試合は、ゴール前でのパスの精度が明暗を分けたといえる。大型DFをそろえる帝京は、攻撃陣にもタレントが豊富で、今後の可能性を感じさせるチームであり、188cmを筆頭に、今大会出場したセンターバックの4名がみな185cmを上回っていた。伊奈学園は中盤での攻防でボールを奪うと、素早いショートカウンターの相手ゴール前に迫るものの、崩しのパスやラストパスの精度を欠き、シュートまで至らなかった。ゲーム展開はほぼ互角だっただけに残念な結果だった。

今大会を通じて感じたことをいくつか挙げたいと思う。

- ①大型のセンターバックを抱えるチームが多かった(いずれの選手も空中戦に強い反面、ステップワークに課題がある)。
- ②攻守を兼ね備えたサイドバックが少ない。
- ③山梨学院、前橋育英の両チームの選手層の厚さ(2ndチームでの出場にも関わらず、1・2年生にタレントが多く、他チームの3年生と互角に戦っていた)。
- ④ウィザスのFW 柁屋選手、身体能力が高く、通常ヘディングでプレーするようなハイボールを胸でコントロールし、確実にマイボールになるよう処理していた。決勝点もこのプレーから生まれた。
- ⑤オーソドックスな3ラインの4-4-2が少なく、4-3-3や4-2-3-1など3トップ気味なシフトで、両サイドアタッカーを有効に使い、流動的にポジションチェンジを行うチームが多かった。反面、効果的なサイドバックの攻撃参加が少なかった。

埼玉県勢の印象は、チーム全体のDF意識が高く、前線からのプレッシャーからボールを奪うと、素早く攻撃に転じるといったスタイルであったように思える。しかし、せっかく高い位置でボールを奪っても、伊奈学園においては崩しのパスに、市立浦和においてはラストパスに課題があり、得点に結びつかなかったのではないかと。今後のインターハイ予選、選手権予選に向けて、どのように調整してくるか楽しみである。

女子

プレナスなでしこリーグ

●前期第9節終了時点(未消化あり)

順位	チーム名	勝点	試合数	勝	分	負	得点	失点	差
1	I神戸	15	5	5	0	0	24	0	+24
2	新潟L	13	6	4	1	1	13	7	+6
3	ジェフL	10	5	3	1	1	7	4	+3
4	湯郷ベル	10	6	2	4	0	7	5	+2
5	日テレ	9	5	3	0	2	7	4	+3
6	浦和	7	5	2	1	2	5	5	±0
7	伊賀FC	3	5	1	0	4	2	10	-8
8	福岡AN	1	6	0	1	5	1	18	-17
9	AS狭山	0	5	0	0	5	6	19	-13

2011年度第17回 関東女子サッカーリーグ

●前期終了時点

順位	チーム名	勝	分	負	得点	失点	得失差	勝点
1	早稲田大学	6	0	1	18	5	+13	18
2	関東学園大学	5	1	1	10	3	+7	16
3	FC PAF	5	0	2	11	10	+1	15
4	武蔵丘短期大学	3	1	3	16	11	+5	10
5	日テレ・メニーナ	3	0	4	12	7	+5	9
6	浦和レッズJr.Y	2	2	3	7	9	-2	8
7	尚美学園大学	0	2	5	3	17	-14	2
8	筑波大学	0	2	5	0	15	-15	2

埼玉スーパーシニア(0-70)サッカーブレ大会[東日本大震災復興祈念]

6月3日 場所:埼玉スタジアム2002

- 第1試合 埼玉シニア70A 6-1 群馬FC60
第2試合 埼玉シニア70B 1-0 ACちば
第3試合 茨城シニア70 0-5 東京都ロイヤル
第4試合 栃木大昭SC 2-0 湘南ベガサスSC
第5試合 ACちば 2-0 群馬FC60
第6試合 埼玉シニア70A 1-0 茨城シニア70
第7試合 埼玉シニア70B 2-0 湘南ベガサスSC
第8試合 東京都ロイヤル 3-2 栃木大昭SC



埼玉シニア70A vs 茨城シニア70



埼玉シニアB vs 湘南ベガサスSC

フットサル

第27回全国選抜フットサル大会関東大会

5月28日 神奈川県立体育センター

●Aブロック

1回戦 埼玉県 5-4 栃木県
代表決定戦 埼玉県 7-3 茨城県

※埼玉県選抜は全国大会に出場する

トリムカップ2011第3回全日本女子選抜フットサル大会

3月25日~27日 高知県立県民体育館

●グループA

埼玉県選抜 1-1 静岡県選抜
埼玉県選抜 2-3 京都府選抜

※埼玉県選抜は1次ラウンド敗退

がんばろうニッポン！ ～FC3DEP(エフシーサンデポ) 紹介

今回は、航空自衛隊入間基地に所属するメンバーで構成されているFC3DEP(県社会人リーグ2部B)を紹介します。自衛官の皆さんのチームもSFAに登録しており、社会人リーグを戦っている我々の仲間です。その仲間たちが、この東日本大震災の復興支援に様々な形で活動されています。すでに派遣されたメンバーに被害の状況をお聞きすると同時に、改めてサッカーへの思いを語っていただきました。

MF河野秀都さんは、被災直後に松島基地に入ったそうです。「地域を見て回った際、驚いたのは、普通の町並みもあるんですが、片や壊滅状態になっている風景が広がっているんです。その差はわずか数百メートル。そのギャップを整理するのが大変でしたね」

DF金子昌弘さんは炊き出しをしていたという。「被災者の皆さんを元気づけようと思って行ったのですが、そういう状況ではなかったですね。たかだか2週間ですが、こちらに戻って改めてサッカーができることに感謝しています」

DF大串善一さんは「ぜひ、自分の目で観てほしいですね。写真を撮るのではなく、感じてほしいのです。被災者の皆さんもそう話されています」という。「サッカーがあって、こうやって健康を維持して、この身体でいっぱい働くことができたことに感謝です。SFAで募金用のワッペンなど作ってもらえると輪が広がると思いますね」

MF森淳史さんは、その風景にショックを受けたと言いま

す。「でも、皆さん『絶対復興するんだ』という気持ちを強くお持ちでしたので、自分たちも(気持ちとして)乗せられた気がしました。ちょっとした公園で子どもたちがボールを蹴っているのを見て、普通にサッカーができる自分は幸せなんだな、当たり前のことを当たり前だとは思ってはいけなかったなと思いましたね」

最後に、河野さんの言葉をもう一つ。「松島基地のグラウンドはきれいな芝生なんです。そこがヘドロで覆われていました。そして、サッカーの仲間ながらサッカーの話ができないんですね。どうやっていいのかわからなくて。これは辛かったですよ」。仲間同士でサッカーの話ができないなんて。1日でも早い復興をお祈りしております。また、埼玉からも様々な支援を行いたいと思います。皆様のご協力をお願い致します。



平成23年度第1回運営会議開催

まだ余震が続く4月2日、大宮・パイオランドホテルにおいて、平成23年度第1回運営会議が開催されました。専門委員会、種別委員会、各連盟、そして4地区の代表者が揃い、東日本大震災直後の現状説明や、今年度のSFAの方向性(予算、公益財団法人に向けて)について話し合いが持たれました。

特筆すべきこととして、審判委員会からは「試合時における審判員のライセンス確認」「手の不正使用に気をつけること」「スローインをしっかりと行うこと」「FKの際にボールを止めること」「警告、ファールのアピールに対して厳正な対処をすること」が挙げられました。

技術委員会からは、技術委員の仕事として「第一はサッカーの環境分析」と明確にされました。もう一つは「指導者のレベルアップ」が掲げられています。また、今年度の国体監督に、成年男子は菊原伸郎氏(埼玉大学監督)、少年男子は名取篤氏(浦和レッズ)、そして女子は河合一武氏(武蔵丘短期大学シエンシア監督)がそれぞれ就任されたことが発表されました。最後に今年は「ユースダイレクター」は設置しないとのことでした。

フェアプレー・規律委員会からは各連盟に対して「(財)埼玉県サッカー協会はフェアプレー日本を目指します」の説明に伺いたいとの要請がありました。柴崎委員長、もしくは事務局までご一報ください。



技術委員会より

●平成23年度大学生によるスポーツインターンシップ制度

派遣先中学校が決まっているのは、4校です(2011年6月10日時点)。加須市立加須東中学校、加須市立北川辺中学校、羽生市立南中学校、川口市立小谷場中学校。他、現在調整中です。

審判委員会より

●第1回関東審判研修会を終えて

(財)埼玉県サッカー協会 審判委員長 岡田 泉

6月3日(金)から5日(日)までの3泊4日で、群馬県前橋市で行われた関東高校サッカー大会を利用し、今年度第1回の関東審判研修会が実施されました。関東各都県より2名、計16名の参加者があり、本県からは深谷純一氏と八島佑太氏の2名が参加しました。6月3日は午後集合し、プラティカルトレーニング(ゲーム中に起りえる場面を取り出し、判定や対応を確認する)と競技規則テスト、大会規定等の打ち合わせ確認が行われました。6月4日・5日は、各会場に分かれて実技研修が行われ関東審判委員会指導部によるゲーム分析とビデオ映像による判定等の検証が行われました。本県の八島氏は主審1試合・副審1試合、深谷氏は副審2試合が割り当てられました。二人とも積極的に経験を自分のものにしようとする姿勢がうかがえました。

研修会を通して感じたことをいくつか挙げます。まずは精神的な強さが挙げられます。普段ならできることや、プラティカルでできていたことが実際のゲームで出来ないケースが多く見られました。審判員の方々も日々のトレーニングの中で、いかに真剣に集中してできるかが実際の場面で力を発揮することに繋がるでしょう。次に、判定基準について昨シーズンから手の不正使用がターゲットとして取り上げられていますが、神経質になりすぎ、判定の一貫性に欠けるケースが多々見られました。

審判員の皆さん、競技規則の精神である公平・平等、安全、喜

びの三つをしっかりと捉え、プレーヤーズファーストを忘れず、多くの人々が世路ベル様なゲームコントロールを目指してください。



第1回関東審判研修会に参加した八島祐太氏と深谷純一氏

広報委員会より

●埼玉新聞「(財)埼玉県サッカー協会だより」について

埼玉新聞で連載している「(財)埼玉県サッカー協会だより」ですが、毎週火曜日の運動面での掲載と変更になりました。引き続き、お読みください。

JFAキッズ(U-6)サッカーフェスティバル2011 in 埼玉スタジアム開催

キッズ委員長 河野雅明

5月22日(日)に埼玉スタジアム2002第2グラウンドで、今年もキッズフェスティバルが開催されました。32チーム、396人(男374人、女22人)もの子どもたちが、サッカーを楽しんでくれました。

毎年5月に開催するU-6キッズフェスティバルについては、幼稚園・保育園とも新学期が始まったばかりな為、参加チームが少なくなってしまうのが現状です。

更に今年は東日本大震災、放射能漏れなどもあり、更に参加チームが少なくなってしまうのではないかと心配していました。しかしながら、指導者、保護者のご理解により昨年とあまり変わらない32チームの参加をいただき、開催することができました。チームスタッフの皆様、保護者の皆様、幼稚園・保育園関係者の皆様に心より感謝しております。

ここ数年埼玉スタジアムのメインピッチでは行っていないのですが、第2グラウンドは保護者の皆さんと選手の距離が近いので、メインピッチで開催するよりもより一層の盛り上がりがありました。ただ、埼玉スタジアムのメインピッチで試合ができると、子どもたちの夢は更に広がるのではないかと思います。

今年のフェスティバルで特に印象的だったことは、指導者の皆さんが笑顔で子供たちに接しているチームばかりだったことで



す。試合になるとどうしても勝ち負けにこだわってしまうスタッフの方が見られるのですが、どのチームのスタッフも相手チームの選手に対するリスペクトを忘れず、子供たちと楽しくサッカーをしてくださったように思いました。

次は、9月23日にユニクロキッズフェスティバルを熊谷市で、11月6日にJFAキッズ(U-6)サッカーフェスティバルを埼玉スタジアムで開催予定です。また多くのキッズの皆さんのご参加を楽しみにしています。

JFA47都道府県協会訪問会議開催

6月12日、ラフレさいたまにおいてJFAの訪問会議が開催された。JFAから中村修三女子部部长、布啓一郎ユースダイレクター、漆間亜美香PHQ部員が出席した。

JFAからは、今後の女子サッカーの育成と普及について、サッカーファミリーの拡大について説明があった。ここで特筆すべき点は、長瀬女子委員長の「来年度からは全て女子のスタッフで運営しようと考えている」という発言。中村部長より、エールが送られた。サッカーファミリーの拡大については、社会人の登録数減少について問題提起があった。

SFAからは、主にリーグ戦化と大会整備について質問した。その中から布ユースダイレクターの発言を抜粋しておく。「整備と言うのは2つあって、大会を終了することも一つ整備であり、やり方を統合したりすることも整備の一つである。まずは既存の大会をしっかりとリスペクトした中で、現状やっていけることをやっていく。ただ、そういう中でも各FAでも大会を終了していただくような努力をしてもらっているので、各地区にしても大会を減らす努力をしていただきたい。日本のサッカーをもっと良くする為ということで賛同いただきたい」

SFAとしては、今以上の頻度でJFAとの交流を図っていきたいと考えています。



インフォメーション

●(財)日本サッカー協会よりサッカー競技中の飲水について(通達)

2011年5月12日の本協会理事会において、改めて「競技中の飲水」に関する協議がなされ、「競技中の飲料は水に限らないものとし、いわゆる“スポーツドリンク”を摂取すること」が承認されました。

つきましては、1988年7月26日付で本協会より発信いたしました、「競技者が競技時間中に飲むことができる物は水に限られる」との通達を改定し、本協会が主催、共催、後援する国内競技会における「競技中の飲水」について下記のとおり実施下さるようお願いいたします。

1.「競技中の飲水」に関する理事会決定事項

競技者が競技時間内に摂取できる飲料は、水のみならず、水以外の飲料(いわゆる“スポーツドリンク”等)であってもよい。

(※P11「競技中の飲水について」よりつづき)

<理由>

近年の気候変動に伴い、夏季における暑熱下での競技においては、熱中症による事故も社会問題となっております。競技中の暑熱対策としては水だけでは不十分であり、熱中症防止のためには水分とミネラル分を効率よく補給することが必要であるため。

<いわゆる「スポーツドリンク」とは>

体液にほぼ等しい浸透圧を持ち、効率よく水分を補給させ、なおかつ体に負担をかけないように考慮されている飲料をいう。成分は、カリウムやナトリウムといった電解質やマグネシウム、カルシウムといったミネラル分を含んでいて、生理食塩水に近い浸透圧で胃腸に負担をかけないように配慮されている。また、運動時に筋肉中に蓄積される乳酸の分解を助け回復を促すとされるクエン酸や、いわゆる疲労回復の際に最も効率の良いエネルギー源であるブドウ糖やショ糖を含んでいる。

2. 競技運用時における確認事項

水以外の飲料を使用するにあたっては、その含有物が競技場のポリウレタン製の全天候型トラックの表面を汚したり、芝生を傷めたりするおそれもあることから、大会主催者が水以外の持ち込み可否及び摂取可能エリアについて、使用会場に確認をとり、その運用を決定する。

●「2011年度スポーツマネジャーズカレッジ本講座」受講生募集

◇受講対象者

地域スポーツクラブ、Jクラブ、都道府県サッカー協会などの運営に携わる方

◇応募方法

2011年7月22日(金)(17時必着)までに、下記の提出書類をJFAまで、郵送して下さい。応募者多数の場合、提出書類による審査・選定を行います。
(提出書類)①受講申込書、②受講志望動機書、③プライバシーポリシー同意書、④スポーツクラブ事業計画書

※ 詳細は、JFAホームページ

<https://els.jfa.or.jp/info/smc/hp/index.html> まで

●2011年度SMCサテライト講座in埼玉 開催日程(予定)

今年度も開催します。よろしくお願いいたします。

2012年1月21日(土)・22日(日)・28日(土)・29日(日)、
2月4日(土)・5日(日)・11日(土)・12日(日)+財務講座(未定)
[各日1セッション(3h)×8日=計24h+財務講座]

※ 夕方～夜の時間帯で開催予定

※ 募集開始は10月頃予定

編集後記

●大震災から3月が経過した。被災された地域の皆様はもとより、どの地域においても従来のサッカーができる環境にないかと認識しております。この日常生活もままならない被災者がいらっしやる現状を認識した上で粛々と大会を実施して参ります。(高橋)

●これからの季節、体調管理をしっかりし、節電にご協力をお願いします。(坂底)

●ゴーヤーの苗を譲っていただき、今年はグリーンカーテンにチャレンジします!元気に育つといいなあ♪(こいち)

●年度替わりの時期は決算が絡むので、毎年の事ながら追われるような日々に……。やっと落ち着いてきた最近、いつも間にか日も長くなり、まだ明るいうちに事務所を出ると不思議な感じです!(かのう)

●大学生によるインターンシップ制度も3年目を迎え、6月から今年度の指導がスタートします。県教育委員会のバックアップと中学校側の理解あつての取組みですが、志を持って指導してくれている大学生指導者たちに心から感謝です。(小豆澤)

●マスクマン佐々木です(笑)。いまだ花粉症地獄から抜けられません。直る気がしません。マスクを付けている事が徐々に恥ずかしくなってきた今日この頃です……。どうせなら一生マスクマンで生きていきたいと思います!(佐々木)

●先ずは「がんばろう日本」。米農家にとって最も重要な「梅雨」。私にとって最も嫌いな「梅雨」。体の節々が疼きます。夏はすぐそこ。がんばります。(栗島)

【参考】◆2010年度

SMCサテライト講座 修了生 17名

SMCサテライトSFA特別講座 修了生 13名



2010年度 JFAスポーツマネジャーズカレッジサテライト講座 受講者

●節電へのご協力をお願い

このたびの震災により被害に受けられた皆様に心からお見舞い申し上げ、一日も早い復旧を心よりお祈り致しております。

(財)埼玉県サッカー協会では政府の節電要請に協力すべく、照明を使用しての活動は控えております。各種連盟及び登録チームの皆様にも引き続きご協力いただきますようお願い申し上げます。

なお、Jリーグなどの試合・大会が再開されつつありますが、本協会専用施設であるリコー東松山研修センターサッカー場の照明を使用しての利用は、しばらく休止致します。

詳細は、SFAホームページの施設委員会のページ「リコー東松山研修センターサッカー場の照明利用休止について」をご覧ください。

●これから夏です

今年も熱中症にご注意ください。熱中症の予防については、SFAホームページの医事委員会のページをご参照ください。

また、試合中や練習中などの落雷にもご注意ください。指導者・大会主催者には、安全配慮義務と保護監督義務が生じます。詳細は、SFAホームページをご覧ください。

●「こころのプロジェクト」相互協力協定締結～東京国際大学

東京国際大学と日本サッカー協会が、「こころのプロジェクト」に関連して、相互協力協定を結びました。6月14日には川淵三郎キャプテンが来校し、調印式が行われました。相互協力協定を結んだのは、県内の大学としては初めて。今後、講師派遣や施設提供で協力するそうです。

●事務局より

・坂底泉事務局長代理が、4月1日より事務局長代行となりました。よろしくお願い致します。

・決算及び事業報告については、6月17日の理事会で承認されました。詳しくはホームページをご覧ください。